

## マーケット概況（2024年7月）

7月の債券相場は、今秋の米国大統領選挙でトランプ氏当選の可能性が意識され、将来の財政拡張を懸念し米国債相場が下落した流れを引き継ぎ、10年374回債は前月末比+3.5bpの1.075%で取引を開始した。2日の10年債入札は無難に通過したが、1ドル=161円台まで進行の円安を一因とした金利先高観から新発10年375回債の利回りは一時2011年7月以来の水準となる1.105%まで上昇した。その後は米国債相場の反発から買いが優勢となり、日銀の債券市場参加者会合で国債買入の積極的減額を求める声の一部で上がり売られる場面もあったが、各入札を順調に通過したことで堅調に推移した。しかし、複数の政府要人から足元の円安を背景に利上げを求める発言があったことから中期ゾーンを中心に徐々に上値が重くなった。複数の弱い経済指標を受け9月利下げの見方が大勢となり米国債相場が上昇すると10年375回債は一時0.995%を付けたが、日銀が今回の金融政策決定会合で追加利上げを検討との報道を受け、月末は中期ゾーンを中心に大幅下落となった。31日の決定会合では国債買入の減額と政策金利の0.25%程度への引き上げが決定し、会合後の記者会見で植田総裁がさらなる利上げも示唆すると2年463回債の利回りは2008年12月以来の水準となる0.455%まで上昇した。結局10年375回債は1.045%を付けて取引を終えた。

### <短国市場>

3M金利は発行額が3,000億円の減額となることや9月末越えの償還となるなど、担保玉確保の動きから5日の3M1241回債の入札は最高落札利回り0.0080%でしっかりと決まり、年末越え償還となる6M1242回債の入札も0.0476%と堅調な結果となった。しかし、月末に日銀金融政策決定会合を控えて中旬以降は徐々に利回りが上昇し、26日の3M1246回債の入札は最高落札利回りが0.0641%に上昇した。結局、日銀は31日に政策金利を0.25%程度に引き上げることを発表し、短国市場はどのゾーンも概ね10.0bp程度甘くなったオファーが観測されたものの、積極的なビッドは見られず、水準が定まらないまま取引を終えた。

### <一般債市場>

7月の定例地方債は、5年債と10年債ともに前月比横ばいの国債カーブ対比+6.0bpで条件決定した。金利先高観からスプレッドの薄さに対する警戒が強まり、このところ継続していたタイト化が止まった。10年定例政保債は前月比横ばいの国債カーブ対比+4.0bpの条件決定となり、10年地方債とのスプレッドは2bpを維持した。19日の社債買入オペは、応札額が前月比486億円減の1年11ヵ月ぶりの低水準となる1,045億円となり、按分落札利回りが前月比小幅低下となるなど売却ニーズが弱まった結果となった。事業債の起債は金融政策の変更を意識した金利先高観から前倒しで発行する傾向が継続しており、前年同月比12%増の2兆5,715億円と7月としてはリーマンショック以降では最も高い水準となった。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#375	1.095(2日)	0.995(30日)	1.105(2日)	1.045(31日)
#374	1.075(1日)	0.980(30日)	1.095(2日)	1.040(31日)
#364	0.820(2日)	0.740(17日)	0.830(2日)	0.815(31日)
#169-#170(5Y)	0.600(1日)	0.545(17日)	0.665(31日)	0.660(31日)
#188-#189(20Y)	1.910(1日)	1.780(30日)	1.960(10日)	1.825(31日)
#1235-#1242 TDB(6M)	0.015(3日)	0.015(3日)	0.050(8日)	0.035(24日)
#1240-#1246 TDB(3M)	0.020(1日)	-0.003(5日)	0.070(26日)	0.065(26日)